

# R4 年度 全国学力・学習状況調査の結果

串本町教育委員会

	小学校 6 年生			中学校 3 年生		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
全国	65.6	63.2	63	69	51	49
和歌山県	65	63	63	66	50	46
串本町	63	63	64	64	39	41

## 教科に関する調査の概要（小学校）

### 【国語】

文章全体の構成や書き表し方などに着目して文や文章を整える問題については全国平均を上回る正解率でした。しかし、人物像や物語の全体像を具体的に想像する問題や表現の効果を考える問題に課題が見られました。

また、記述式の問題において条件に合わせて書く力に課題が見られました。

### 【算数】

示された場面を解釈し除法で求めることができる理由の記述や、示された場面において目的に合った数の処理の仕方を考察する問題、図形を構成する要素に着目してひし形の意味や性質・構成の仕方について答える問題、示された作図の手順を基に図形を構成する要素に着目し平行四辺形であることを判断するプログラムを選択する問題については、全国平均を上回る正解率でした。しかし、分類整理されたデータを基に目的に応じてデータの特徴を捉える問題や、目的に応じて円グラフを選択し必要な情報を読み取る問題に課題が見られました。

### 【理科】

観察などで得た結果を結果からいえることの視点で分析して解釈し自分の考えをもつ問題、自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に実験の方法を検討して改善し自分の考えをもつ問題、昆虫の体のつくりに関する問題については、全国平均を上回る正解率でした。しかし、実験器具の名称を答える問題、自分で発想した予想と実験の結果を基に問題に対するまとめを検討して改善し自分の考えをもつ問題に課題が見られました。

## 教科に関する調査の概要（中学校）

### 【国語】

場面の展開や登場人物の心情の変化などについて描写を基に捉える問題や、漢字の行書の読みやすい書き方や行書の特徴についての問題は、全国平均と同程度の正解率でした。しかし、場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈する問題や論理の展開などに注意して聞く問題、助動詞の働きについて理解し目的に応じて使う問題に課題が見られました。

### 【数学】

箱ひげ図から分布の特徴を読み取る問題、与えられた表やグラフから必要な情報を適切に読み取る問題は、全国平均と同程度の正解率でした。しかし、簡単な連立二元一次方程式を解く問題、証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を書く問題に課題が見られました。

また、説明する問題等記述式問題の正答率は低く、無回答率も高かったです。

### 【理科】

日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる問題、観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を考える学習場面において観測地の標高を空間的に捉え、気圧の概念を空気の柱で説明できるか問うことで気圧に関する知識及び技能を身に付けているかどうかをみる問題については、全国平均と同程度の正解率でした。しかし、化学変化に関する知識及び技能を活用して水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる問題、節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を生活場所や移動の仕方と関連付けて体のつくりと働きを分析して解釈できるかどうかをみる問題、モデルを使った実験において変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかどうかをみる問題に課題が見られました。

## 児童質問紙調査の概要（小学校）

○学校に行くのは楽しい。

○人が困っているときは、進んで助ける。

▲学校で、授業中に自分で調べる場面や発表する場面で、P C・タブレットなどのI C T機器を、あまり使っていない。

▲国語、算数において解答時間が足りなかった。

### 生徒質問紙調査の概要（中学校）

- 自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがある。
- 今住んでいる地域の行事に参加している。
- 1，2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。
- ▲学校で、授業中に自分で調べる場面や発表する場面で、P C・タブレットなどのI C T機器を、あまり使っていない。
- ▲学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりの勉強時間が少ない。

### 串本町としての取組として

まずは日々の授業改善に取り組んでいきます。そのために、

- ・授業の相互参観を積極的に行い、発問や指示が明確であったか、めあてに迫る授業展開や教師の手立てがなされているかを授業後に授業者と参観者で共有し、協議します。
- ・学校訪問や研究授業等で指導助言をおこない、各先生方の授業力・指導力の向上に努めます。紀南教育事務所とも連携し、より多角的・具体的な指導助言を行っていきます。
- ・各校での事前検討会・事後研修会の方法についても、これまで以上に子どもの学びにつながる活発な協議となるよう研修方法の改善を促していきます。
- ・I C Tの活用を推進するため、研修会や実技講習会を実施し、令和の日本型教育にあった指導法についても取り入れていきます。
- ・若手教員育成プログラムの充実をはかり、若手教員に加えて中堅教員・管理職にも参加してもらい、指導力向上と児童生徒の学力の全体的な底上げを行っていきます。